

難波宮

NA NI WA NO MI YA

財団法人 大阪市文化財協会

発見された

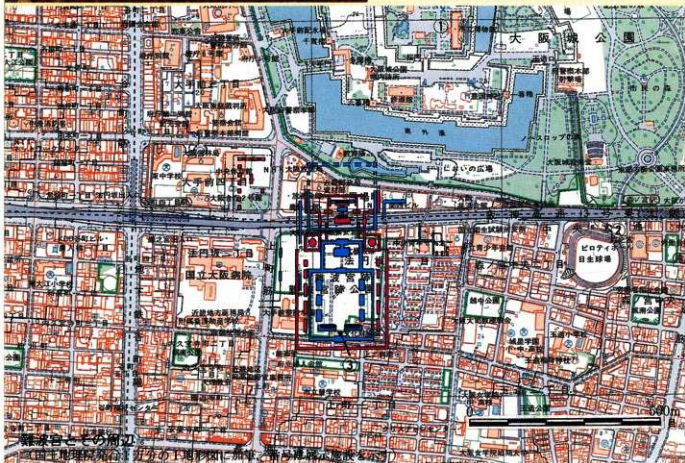
発掘調査の歴史

難波宮の名称は、飛鳥・奈良時代の記録にしばしば見られますが、長い間その所在はわかりませんでした。しかし上町台地の北端、大阪市中央区法門坂の地から奈良時代の瓦が出土したことがきっかけとなり、1954（昭和29）年より、山根徳太郎博士を中心として、発掘調査が始められました。

最初は手さぐりの状態が続きましたが、1957（昭和32）年には内裏回廊が、また1961（同36）年には大極殿が発見され、まぎれもなく難波宮であることが確認されました。

難波宮の概要

これまで40年におよぶ発掘調査によって、二時期の宮殿が明らかにされています。



難波宮とその周辺

皇田王聖徳太子の御宇に於て、難波宮を造らばと云ふ事あり

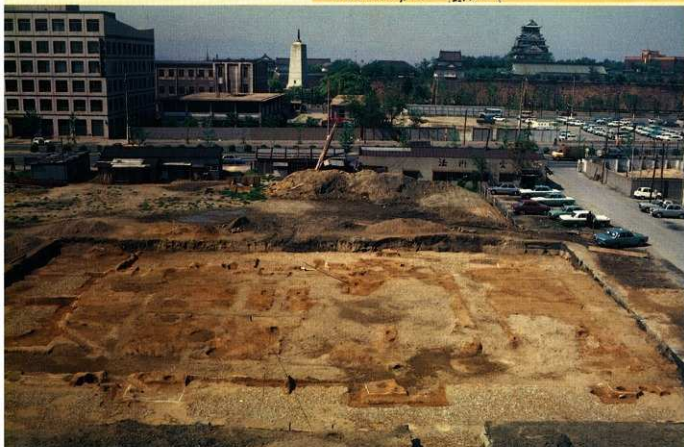
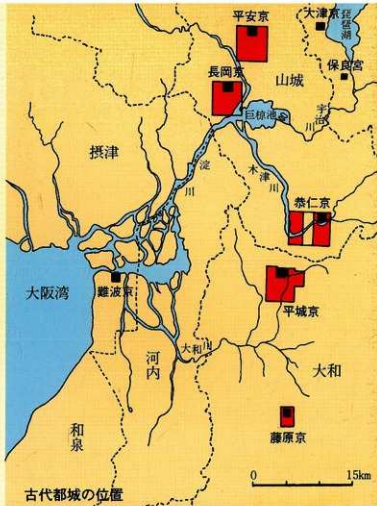
大阪府立歴史民俗学館

幻の難波宮

このうち先行する宮殿は、火災にあった跡があることから、686（朱鳥元）年に焼失した天武天皇の難波宮であることは明かです。問題は、その造営時期ですが、調査の結果、大化改新（645年）の際、難波遷都に伴って造営された孝徳天皇（なむねのみや）の難波長柄豊碕宮である可能性が高いと考えられています。

もうひとつの宮殿は、奈良時代の瓦が使われていることから、聖武天皇が726（神亀3）年から造営を行なった難波宮であると考えられています。

これらの調査成果にもとづいて、現在宮殿の中心部約90,000平方メートルが史跡に指定され、大極殿の基壇が復原されるなど、史跡公園として市民に親しまれています。

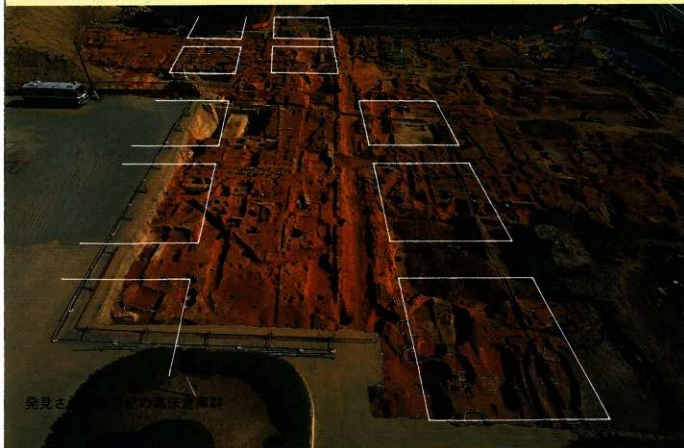


後醍醐天皇大極殿の全面調査（写真は1970年の全面調査時）

難波宮以前

瀬戸内海に面し、淀川や大和川をさかのぼって、古代の政治的中心である大和や河内へいくことのできる難波は、交通の要地でした。このような場所にある難波の上町台地の北端には、5世紀の後半に大きな倉庫群が建てられます。これは16棟以上におよぶ高床倉庫を整然と並べたもので、百舌鳥や古市で巨大な古墳を築いていた大王がつくったと考えられます。

6～7世紀には、付近一帯にたくさんの建物が建てられるようになります。当時、難波津と呼ばれる港が栄え、ここは物資の一大集散地に発展しました。中国・朝鮮からの外交使節を迎えたり、遣隋使や遣唐使が船出したのも難波津です。そのために、迎賓館のような建物や国の出先機関も設けられ、多くの人々で賑わいました。



発見された5世紀の高床倉庫群



復元された5世紀の高床倉庫



建てられた6～7世紀の建物群

前期難波宮

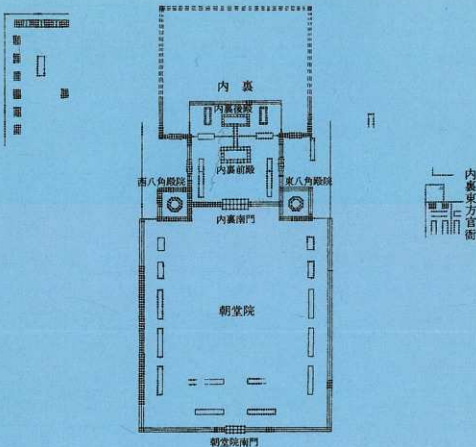
大化改新後もまもなく、それまでの大集落の一部をとり壊してつくられたのが前期難波宮と考えられています。建物はすべて掘立柱形式で、屋根にはまだ瓦を用いない古い様式でした。

宮殿の中心は内裏と朝堂院です。内裏は天皇の私的な居住区ですが、南側には内裏前殿・後殿など、公的な性格をもつ最も重要な建物が建てられていました。内裏南門の東西には、他の宮殿にはみられない八角殿院が配置されています。南側の回廊で囲まれた朝堂院のなかには、14棟以上の朝堂が整然と並び、中央は大きな広場となっています。ここに多数の役人が整列し、重要な儀式などが行なわれたのです。

内裏の東西には倉庫を主体とする役所がみつかっています。そのうち内裏西方の倉庫群は、後の大藏省のような役所と考えられています。



内裏西方倉庫群



前期難波宮の殿舎配置

0 100m



後期難波宮

後期難波宮は、726（神亀3）年に聖武天皇の命令で作り始められた丹塗りで瓦葺の宮殿です。軒先には、蓮華・唐草文や難波宮に特徴的な重圏文軒瓦が使われていました。

これまでの発掘調査で、内裏の南半と大極殿・朝堂院などの中心部のほかに東西の役所の一部がわかってきました。朝堂院は長らく藤原宮や平城宮と同じ12堂形式とされていま

したが、最近の調査で後の長岡宮と同じ8堂形式であることがわかりました。これにより784（延暦3）年の長岡宮造営の際は、この難波宮の朝堂院や大極殿などを移築したことがほぼ確実になりました。

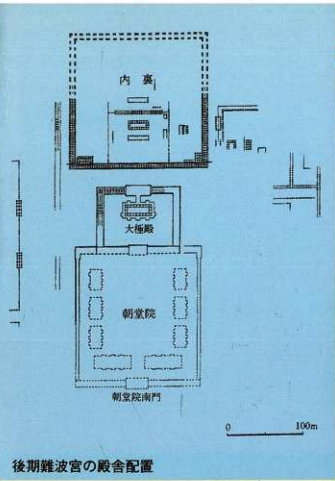
後期難波宮は、副都としてつくられた宮殿ですが、744（天平16）年には、短期間ですが日本の主都となりました。



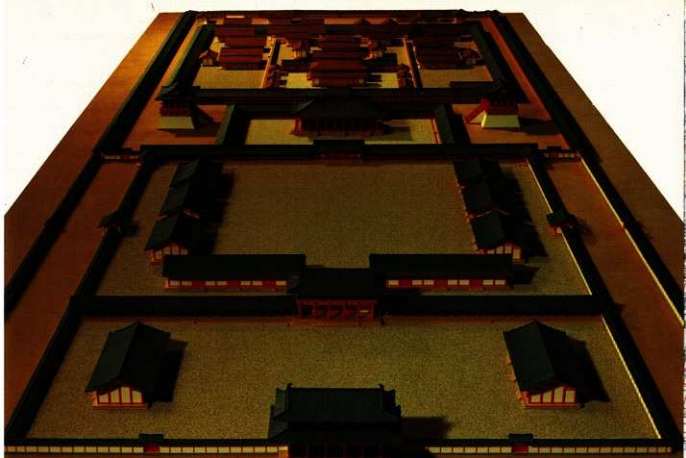
重圏文軒瓦



蓮華・唐草文軒瓦



後期難波宮の殿舎配置



後期難波宮の復元模型 (株)大林組提供



難波宮跡公園の一般公開を記念して四天王寺興築が演奏された。(1971年5月)

難波宮関連略年表

5世紀後半	(応神) (仁徳)	難波大隅宮に行幸 難波高津宮に都す 大倉庫群がつくられる 以後、難波は外交・西国経営の要地となり、大郡・小郡・三韓館・難波屯倉などがおかれた	仏教伝 (538) 飛鳥寺建立 (558) 四天王寺建立 (593) 大化改新 (645)	
	645	大化 1	難波に都を移す この間、子代離宮・蝦蟇行宮・小郡宮・味経宮・大郡宮などの名がみえる	
	650	白雉 1	宮の界の標を立てる (難波長柄豊碯宮の造営開始か)	
	652		難波長柄豊碯宮が完成	
	679	天武 8	難波に羅城を築く	近江大津京に遷都 (667)
	683		複都制の詔	
	686	朱鳥 1	難波大蔵(省)から失火、宮室全焼 その後も文武天皇 (699・706)、元正天皇 (717)、聖武天皇(725)などが難波宮に行幸した	藤原京に遷都 (694) 平城京に遷都 (710)
	726	神亀 3	藤原宇合を知造難波宮事とする (後期難波宮の造営開始)	
	732	天平 4	宇合らにものを賜う (工事一段落か)	恭仁京に遷都 (740) 平城京に遷都 (745)
	744		難波宮を皇都と定む	
	756	天平勝宝 8	孝謙天皇、難波宮の東南新宮に御す	
	793	延暦 12	摂津職を改め摂津国とする この頃、難波宮廃止か	長岡京に遷都 (784) 平安京に遷都 (794)

展示施設案内

①大阪市立博物館 (有料)

大阪の原始から近世の歴史が展示されています。

入館時間 9:15~16:15

休館日 第2・第4月曜日

12月28日~1月4日

②森の宮遺跡の展示室

(森ノ宮ピロティホール1階西側)

難波宮跡の東側に位置する森の宮遺跡から出土した縄文時代から近世の遺物が展示されています。

入館時間 12:00~15:00

休館日 月曜日・祝日の翌日

12月29日~1月3日

③(財)大阪市文化財協会難波宮分室

難波宮跡や大坂城跡などの発掘調査で出土した遺物が展示されています。

入館時間 10:00~17:00

休館日 日曜・祝日・土曜日の午後

12月28日~1月4日

『難波宮』 1992年1月16日

編集・発行 財団法人 大阪市文化財協会

〒540 大阪市中央区法円坂1-1-35

大阪市立中央青年センター6F

TEL 06-943-6833・FAX 06-920-2272